

厚生労働省班会議「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」

第7回 先天性吸収不全症グループ会議 議事録

日時：平成27年10月18日（土） 20:00～

場所：広島国際会議場 地下2階会議室

出席者：新井勝大、幾瀬 圭、位田忍、牛島高介、工藤孝広、永田公二、藤井善充、虫明聡太郎、村山 圭、柳 忠宏

【議事】

1. 進捗状況

10月10日二次調査票発送

2. PICO, CQについて

・CQは「治療」を対象としたものに統一する。（いずれも希少疾患であり、各論的項目に個別にCQを立てても実質的にSR対象とならないと考えられるため、個々の治療薬や診断法に関しては対象としない。また、“予後”の因子はoutcomeに反映される。）

従って、7疾患全てで基本的に下記の形式のCQを立てることとする。

- ・「
の予後改善に内科的治療は有効か」
- ・「
の予後改善に外科的治療は有効か」（外科手術対象となるもの）
- ・ Patient, Problem, Population
 - ・ “その他” で、腸リンパ管拡張症では「続発性-」を除外する、SDSでは「血液疾患の合併を除外する」など、必要な場合は“P”の項で検索対象の指定を加える。
- ・ Intervention / Comparison, Controls
 - ・ 内科（外科）的治療あり / 内科（外科）的治療なし
- ・ Outcome は下記の項目を基本パターンとする
 - ・ 「生」（益）
 - ・ 「死」（害）
 - ・ 「下痢の改善」（消化器症状の改善）（益）
 - ・ 「下痢の遷延」（消化器症状の遷延）（害）
 - ・ 「静脈栄養の離脱」（または「-に依存しない」）（益）
 - ・ 「静脈栄養への依存」（害）
 - ・ 「成長障害」（害）
 - ・ 「発達障害」（害）
- ・ その他、SDSでは“P その他”で「血液疾患の合併を除外する」など、必要な場合は“P”の項で検索対象の指定を加える。
- ・ PICOは日本語で作成して良い

- ・作成した PICO/CQ に基づいて、聖路加国際大 河合先生に検索を依頼する。
- ・恐らく、どの疾患でも RCT などエビデンスレベルの高い文献はほとんど上がらず、数も限られていると予想される。この場合もそれぞれに対象文献の内容の確認と評価を行って、ガイドライン作成のためのバックボーンとする。
- ・さらに今後回収する二次調査の結果を踏まえて、正式な SR 対象とならないものもいわゆる “ expert opinion ” の形式でガイドラインを作成、提案する。

4 . メーリングリスト

永田先生に、田口班 ML の傘下に「先天性吸収不全症 ML」を作っただき、今後はこれを利用する。

5 . 今後の予定

- ・ 11 月 23 日 (日) 田口班コアメンバー会議
- ・ 12 月 6 日 (日) 第 8 回当グループ会議 (仁尾班会議終了後)
- ・ 12 月中 (日時未定) 田口班中間報告会議

【システマティックレビュー対象疾患】

乳児難治性下痢症	位田、新井
Shwachman-Diamond 症候群	工藤孝
ミトコンドリア呼吸鎖異常症	虫明、工藤豊、(村山圭)
原発性リンパ管拡張症	土岐、永田
先天性クロール下痢症	牛島、柳
多発性内分泌腺腫症	米倉、石井
IPEX 症候群・自己免疫性腸症	新井、(窪田満)